

No.11

令和7年
春・夏

職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する

職大だより

公益社団法人 金沢職人大学校



巻頭言

<金沢職人大学校機能強化計画が策定されました>

金沢職人大学校は、来秋に創立30周年を迎えます。これまで、伝統的建築物の修復技術の継承や文化財建造物に関わる専門技術者の育成に取り組み、確かな実績を築いてきました。全国でも珍しい、自治体が運営する文化財建造物の保存・修復に関する専門教育機関として高く評価されています。

一方で、生活様式の変化や機械化の進行、さらには少子化による若手中堅技術者の不足が著しく、近年、職人技術の継承が究めて困難な状況となっています（「職大だより10号」巻頭言参照）。また、昨年の元旦に発生した能登半島地震では、多くの歴史的建造物が被災し、その修復に必要な伝統技術を持った職人や技術者が圧倒的に不足している現状があります。

このような状況を背景に、金沢職人大学校のあり方について議論を重ねてきた「金沢職人大学校機能強化計画」が去る3月に策定されました。基本の方針として以下にあげる5つの項目がありますが、概括すれば、職人大学校の持続的発展に向けて、伝統技術の活用促進や人材育成の強化を図りつつ、地域を

越えた修復事業への貢献を進めること、あわせて、これまで以上の役割を果たすために、組織体制の整備と情報発信を通じて市民の理解を深め、活動の幅を広げていくことなどが示されています。

1. 蓄積された知見・伝統技術の活用促進：伝統的な建築技術や修復技法を活かす仕組みをつくり、修了生の活躍の場を広げます。
2. 育成機能の強化：入学希望者を確保しつつ、持続可能な運営を目指します。
3. 修復事業の全国への貢献：職人大学校で培ってきた技術等を使って幅広く支援します。
4. 組織体制の強化：求められる機能を発揮できる組織体制を整えます。
5. 情報発信と市民理解の向上：職人大学校の活動をよりわかりやすく発信し、歴史的建造物修理等の価値へ市民の理解を深めます。

ここでは具体的な事業内容の詳細までは触れられませんが、これからが計画を実行に移す段階であり、改革はここから本格的に始動します。一つひとつの課題に取り組み、高い技術力と応用力を備えた技術者の育成に努め、文化財建造物保護に貢献していきたいと考えています。（坂本英之）



金沢職人大学校 玄関エントランスに 設置されているモニュメント

9つの科の伝統的な技が象徴的にまとめられ、
職人たちの卓越した技術が見てとれるように
デザインされています。



表具科
「襖の仕組み」

建具職人が作った格子状の木枠に

1) 下張りとして

① 骨格縛り: 木に糊付けして張る。

② 胴張り: 間似合紙に糊を付け貼る。泥混じりの紙で光が透けないようにする。

③ 三重の蓑張り: 反故紙を3枚重なるように三分の一ずつずらして張り合わせることで、ふっくらする。

④ 蓑縛り: 蓑張りの浮きを抑えるために、紙全体に糊を付けて貼る。紙の重なり部分の端削(みみそぎ)をして凹凸をなくす。

2) 上張りとして二重の浮け張り

① 木枠のサイズどおりに、紙の端3ミリ程に糊を付け張る。

② 片方に手先が出た紙端3ミリ程、糊を付け張る。

この後、最後の上張りを張って、縁、引き手を付ける。



建具科「簾虫籠(すむしこ・すむすこ)」

金沢の町家特有の格子に木虫籠(きむしこ・きむすこ)があるが、木を縦に組む木虫籠とは異なり、竹を横に簾に組んで、外からの視線をゆるやかに遮り、中からは外が見えるようにしたもの。

竹の皮を内側にして、4本毎に節を並べて装飾的に組んである。同じ節から取っているため、節の形が揃って、リズムが生まれる。タコ糸は桧木に隠さず、編み方を見せしている。



▲裏側も見えるよう鏡が入っている。

造園科「竹垣2種」

竹垣は見通しにより、遮蔽垣と透かし垣の2種類に大別できる。

目隠しのために使う遮蔽垣の例として、「建仁寺垣」は四つ割りにした竹を、節が揃わないようにしてかきつけたもの。

空間を仕切るために使う透かし垣の例として、「光悦寺垣」では、竹を菱形に組んだ部分。



板金科「鉛瓦葺き」

木材を瓦の形に造り、その上に鉛板を打ち付けた後、銅釘で固定する。初めは灰黒色だが、二酸化炭素や雨水に反応して経年変化し、薄く雪化粧したように優美になる。金沢城石川門と五十間長屋の屋根に現在も見ることができる。



板金科「銅板の太鼓鉾仕上げ」

枠材を銅板で覆い太鼓鉾で固定してある。①銅板端口を45度にヤスリ仕上げし、断面を突き合わせ、平らに一直線に仕上げてある。②端口45度の仕上げ面が見えるように、上下4枚に分けて断面を見せている。

すべて手作業のヤスリ仕上げ。



大工科「継ぎ手(バサラ継ぎ)」

数ある継ぎ手の手法の中でも、ひととき難易度が高く、耐震性に優れ、技を魅せることができる。

大阪城大手門控柱に使用された幻の継ぎ手。



大工科「仕口(渡りあご)」

梁の上に桁を乗せるように木材同士に溝を作り、はめ込んで組み上げる。

③表面をはつって、その削り跡を残すように仕上っている。

④和釘「頭巻釘」は手打ちの角足。火造りで頭を平たく、うちわのように広げて巻いたもの。



瓦科「軒瓦に梅鉢門のデザイン」

「いぶし瓦」の手法でデザインした前田家の家紋。デザインを16寸の木型で起こし、土の粘土瓦を焼成した後で、燻化している。これにより、いぶし銀とよばれる白っぽい薄い灰色になることから「いぶし瓦」と呼ばれる。いぶすことで瓦の芯まで同色となる。金沢城御殿もいぶし瓦であったといわれる。仕上げに金箔を貼って装飾している。



「和船の舟板古材」

古材を装飾的に利用している。長年の使用と風雪雨により洗われた「景色」のある板は貴重。



畳科「畳の仕組み」

- 1)「畳表」イ草を敷物のように織ってある部分。経糸は麻糸。
- 2)「畳床」芯になる部分。稲わらの束を縦置き、横置きを交互に繰り返して6層重ねてある。一番奥の6層目はイ草の茎を並べて見せている。
- 3)「畳縁」畳の長手方向のへりに被せて縫いつける布の部分。茶室で利用される、麻布を藍染した「高宮縁」を使用。布の芯に、黒い縁下紙と茶色の細(ほそ)が入っている。
- 4)「框板」畳床の角を保護し、仕上りを美しくするため、麻糸で縫いつけてある。



左官科「聚楽壁の構造」

原料となる土が京都西陣の聚楽第跡地付近から産出されることから「聚楽塗」といわれる。「ゆず肌仕上げ」といわれる柔らかい凹凸のある表面が魅力。厚さ約2mmと、薄く均一に仕上げられた土肌に技がみてとれる。

金沢では縦と横に四分幅の竹小舞を組み、その上から土壁を3回重ねて塗る。荒壁塗り→目荒らしをして、乾燥による収縮を防ぐ中塗り→中塗り→仕上げに聚楽土で上塗り。

ここでは、成巽閣「群青の間」でも使用される朱色を上塗りに、群青色で金沢の市章をデザインしている。



石工科「金沢産戸室石の加工」

藩政期には藩の留め石とされた金沢産戸室石は、金沢城石垣や庭石などに多用された。

1)青戸室:比較的硬いため、切削加工して表面を研磨してあり、ツルツルする。

2)赤戸室:比較的柔らかいので、ピシャン加工でザラザラに仕上げている。



金沢職人大学校本科 冬の風物詩といえば、

石工科「火づくり」

表具科「寒糊吹き」

造園科「雪吊りと長土塀薦かけ」



石工科 職大では鋼の道具作りから指導していて、毎年寒の時期に行います。ふいごで火入れし、赤くなったところをたたき出して、先を尖らせ、水に入れて焼き入れます。焼きが強いと欠けてしまうので、その手加減を覚えなくてはなりません。「道具焼きの一人前になるのと、石仕事で一人前になるのはよく似たもの」といわれるほど、道具焼きは難しいものです。

表具科 毎年1月の大寒の頃に、寒糊吹きを行っています。

小麦澱粉に地下水を加えて、羽釜を暖めながらかき混ぜます。できあがった糊は、5年～10年寝かせます。長く寝かせるほどに糊が軟らかくなり、粘着力が弱くなります。中には、20年以上寝かせても使える糊があります。粘着力が弱く、掛け軸が軟らかく仕上がる糊は古糊に優るものはありません。

造園科

1) 加賀流の雪吊りは、「りんご吊り」という方法で、先端に荒縄で「飾りいぼ結び」を施しています。
2) 例年12月初めに、金沢市長町の武家屋敷群を含め、全長980mに及ぶ長土塀に薦掛けを行っています。美しい薦を編む技術の継承が課題で、職大では畳科が中心となって、この継承を行っています。

金沢職人大学校で高度な伝統技術を習得した職人たちが
古い建物などの修理に関する
相談を承ります！

あなたの「出入り職人」
見つけられます



🔍 修理項目から探す

🔍 修理項目から探す

🔍 キーワードで探す



【編集後記】

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開幕しました。1970年の大阪万博では、携帯電話や電気自動車など現代に普及している多くの技術や製品の原型を世に送り出し、人類が平和的に共存できる未来社会を目指すというメッセージが多くの人に伝わった万博でした。

一方、現大阪・関西万博は入場者数が想定を下回り、加えて、コスト等から万博に反対する意見も多く、意義や効果が見えにくく「開催が目的？」との声もあります。閉幕までまだ時間があるので、成功に向け今後の運営に期待したいと思います。

目的と手段の履き違いは、日々の業務でも陥り易く、議論が迷走します。目標や目的を明確にし共有しなければ解決への道筋が見えません。

事務局も職人大学校機能強化計画に基づき、多くの課題を解決するために目標や目的を見失わず取り組みを進めたいと思います。(H.T)

【発行・連絡問い合わせ先】 公益社団法人 金沢職人大学校

住所：石川県金沢市大和町1番1号 *金沢市民芸術村の一角にあります。

電話：076-265-8311 ファックス：076-225-8314

Webサイト：<https://www.k-syokudai.jp/> 事務局：平日9:00-17:00/土日・祝休み

